

令和7年度第1回福島県原子力発電所の廃炉に関する安全確保県民会議に係る意見及び回答について

NO.	分類	質問、意見等	回 答
1	質問	ALPS処理水の保管タンクの解体について、溶接型のタンクの解体が始まるとのことだが、フランジ型タンクと同様の処理方法で解体を進めることになるのか。	【東京電力】 ○タンク解体手順はフランジ型・溶接型ともに同様の工程となります。 線量測定→必要に応じて除染→解体→減容（切断）→コンテナ収納 ○事故当時、日々発生する放射性物質を含む水を、比較的短期での調達と建設が可能なフランジ型タンクで貯蔵していました。 その後、漏えいリスクが小さく信頼性が高い溶接型への切り替えを進め2019年3月に処理水の移送を完了しました。 ○フランジ型タンクは、最後のエリア（Eエリア）の全49基中48基の解体が2024年7月までに完了しています。 ○残り1基（D1タンク）は、タンクの底部に粘性の高いスラッジが堆積しており、吸引ポンプなどを用いてスラッジの回収を行っております。その後、タンク内を除染し解体する計画です。 ○また、溶接型タンクは、本年2月に「J9エリアタンク（全12基）の解体に着手しており、現在は、8基のタンク解体が完了（6/19現在）しております。 ○溶接タンクの解体については資料「J8 J9エリアのタンク解体」をご覧ください。 【東京電力HP】 <J8、J9エリアタンクの解体> https://www.tepco.co.jp/decommission/information/newsrelease/reference/pdf/2025/1h/rf_20250206_2.pdf <Eエリアフランジ型タンク解体の進捗状況> https://www.tepco.co.jp/decommission/information/newsrelease/reference/pdf/2025/1h/rf_20250421_1.pdf
2	意見	〇〇町では、帰還する人を増やそうとしている。多くの人が戻るためにも、安心して暮らせる環境整備が必要であり、早急にかつ安全に廃炉作業を進めて欲しい。	【東京電力】 ○廃炉作業を安全かつ着実に進めることが福島復興の大前提であり、長期にわたる廃炉作業を、地元の皆さまが不安を感じるようなことがないようDXを含む運用・設備改善にも努め、当事者としての責務と使命を全うしてまいります。 ○福島第一原子力発電所の廃炉作業は世界でも前例のない取り組みが続きますが「廃炉中長期実行プラン2025」に則り、安全かつ着実に廃炉に取り組んでいくとともに引き続き「信頼回復」を最優先課題に掲げ、「地元の皆さまのご理解とご信頼なくして進められない」ということを、社員一人ひとりが肝に銘じ、しっかりと取り組んでまいります。
3	意見	この会議に出席する度に思うことだが、会議の資料の量が多く、説明の時間も長いと感じている。説明はもっとポイント絞って行ってほしい。 また、会議の環境があまり発言しやすい雰囲気とは言えず、形式だけの会議になっているように感じる。この会議をもっと自由に思いを語れるような場としてほしい。	【事務局（福島県原子力安全対策課）】 「福島県原子力発電所の廃炉に関する安全確保県民会議」の開催にあたっては、事務局から説明者である国や東京電力に対して、出席者の皆様に丁寧かつ分かりやすく内容を説明いただくようお願いしているところです。 説明においては、図や動画の活用など、工夫をいただいているところではありますが、一方で口頭による説明が大半を占めていることもあり、資料の分量や説明時間が長くなってしまっております。今後、説明者となる国・東京電力とは資料や説明の方法について、よりポイント絞って進められるように調整してまいります。 また、事務局においても、議長と協力しながら、出席される構成員の皆様がより発言しやすいような会議の雰囲気づくりに引き続き取り組んでまいります。